

]

20210527 石橋 功

はじめに

著者 精神科医で少年院の法務技官 性加害者との出会い 認知行動療法の開始  
性加害者は性に対して歪んだ思考（「実は女性は襲われたいと思っている」等）を持っ  
ていたり・・・攻撃的、被害的思考を持っている場合があり、そういった歪んだ思考が性  
加害行為に繋がっている

彼は認知能力が弱く療法のワークブックを理解できない

発達障害で病院で受診する児童・青年は比較的恵まれた子供たちである

少年院で「障害があった」を知るケース多い 「教育の敗北」

「反省以前の子どもたち」

「凶暴で手に負えない少年」の真実 世の中のすべてが歪んで見えている p20 図参照  
聞く力も弱くほとんど聞き取れていない これが非行の原因 「反省以前の問題」（簡単  
な足し算や引き算ができない、漢字が読めない 簡単な図形が写せない 短い文章すら複  
唱できない） 苦手なことは「勉強」「人と話すこと」

学校で気づかれない子どもたち 小学校ではやっかいな子中学で急降下少年院へ

褒める教育だけでは問題は解決しない 現在の支援スタイルは「いいことを褒める」

「苦手なことをそれ以上さえない」これでは障害を支援者が作り出している

一日五分で日本が変わる 非行少年をトレーニングで変える

第2章 「僕はやさしい人間です」と答える殺人少年

ケーキを切れない非行少年たち p34 図参照 「反省以前」学校で配慮されず少年院で  
「反省」を強いられる

計算ができず、漢字も読めない 計画が立てられない、見通しがもてない 「後先のこ  
とを考えていなかった」に そもそも反省ができず葛藤すらもてない、感情をあらわす言  
葉は「イライラ」しか知らない

自分はやさしいという殺人少年8割 殺人等の問題の大きさに気づかない

人を殺してみたい気持ちが消えない少年 だい7章で

幼児ばかりをねらう性非行少年 「9歳の壁」8歳以下の少女に関心アダルト動画の影響

第3章 非行少年に共通する特徴

1, 認知機能の弱さ 2, 感情統制の弱さ 3, 融通の利かなさ 4, 不適切な自己評価  
5, 対人スキルの乏しさ + 身体的不器用さ

1, 認知機能の弱さ 見たり聞いたり想像する力が弱い

「不真面目な生徒」「やる気がない生徒」の背景にあるもの

聞き取れない 理解できない 読めない

想像力が弱ければ努力できない努力しない人間は他人の努力が理解不能  
悪いことをしても反省できない 反省以前の問題の克服の必要

2, 感情統制の弱さ 感情を統制できないと認知機能も働かない モヤモヤがストレスに

ストレス発散のために性非行

怒りの背景を知らねばならない 自分に自信がないと自我が脆くて傷つきやすい

怒りは冷静な思考を止める

感情は多くの行動の動機づけである ○○したい気持ちを下げる

3, 融通の利かなさ 頭が硬いとどうなるのか? 強盗の繰り返し

BADS (遂行機能障害症候群の行動評価) コルク ビーカー 水学校にも多い「融通の利かない子」

融通の利かなさが被害感につながる

4, 不適切な自己評価 自分のことを知らないとどうなるのか?

なぜ自己評価が不適切になるのか 適切な自己評価は他者との適切な関係性の中でのみ育つ

5, 対人スキルの乏しさ 対人スキルが弱いとどうなるのか?

嫌なことが断れない 助けを求めることができない 認知機能の弱さが生み出す

p 80

嫌われないために非行に走る? 「ふざけ行為」の強化

トレーニングの機会の減少 SNS の普及

性の問題行動につながることも イジメ被害が原因

6, 身体的不器用さ 身体が不器用だったらどうなるのか?

不器用さは周りにバレる 発達性協調運動症

身体的不器用さの特徴と背景 力加減ができない 物をよくこわす 左右がわからない 姿勢が悪い じっと座ってられない

#### 第4章 気づかれない子どもたち

子どもたちが発しているサイン p 91 92

サインの出し始めは小学校2年生から

保護者にも気づかれない 保護者の理解は困難

社会でも気づかれない 一次障害～四次障害 p 98

「クラスの下から5人」の子どもたち 境界知能の存在 IQ 70～84

病名のつかない子どもたち

非行化も懸念される子どもたち

気づかれないから警察に逮捕される 「中1ギャップ」

#### 第5章 忘れられた人々

どうしてそんなことをするのか理解不能な人々

大人になると忘れられてしまう厄介な人々 特徴 p 109

健常人と見分けがつきにくい

「軽度」という誤解

虐待も知的なハンディが原因の場合も

本来は保護しなければならない障害者が犯罪者に

刑務所にかなりの割合でいる忘れられた人々 山本譲司氏の「獄窓記」  
少年院にもいた「忘れられた少年たち」 そもそも弱い存在である、障害のある少年に激しい処置をするとどうなるか。多くはうつ病のような状態になったり精神科疾患を発症  
被害者が被害者を生む イジメ 幼女に対する性加害

#### 第6章 褒める教育だけでは問題は解決しない

褒める 話を聞いてあげる 子どもの問題を先送りしている

「この子は自尊感情が低い」という紋切型フレーズ 自尊感情が実情と乖離が問題

ありのままの現実の自分を受け入れていく強さの必要

教科教育以外はないがしろにされている 社会面への教育がない

全ての学習の基礎となる認知機能への支援を コグトレ（認知機能強化トレーニング）の  
必要性

医療・心理分野からは救えないもの

知能検査だけではなぜダメなのか WISI（知能検査）はザル検査

「知的に問題ない」が新たな障害を生む

司法分野にないもの 「なぜやったか」「どのくらい責任が取れるか」の鑑定

「ではどうすれば防げるのか」が無縁

欧米の受け売りでは通用しない

#### 第7章 ではどうすれば？一日5分で日本を変える

非行少年から学ぶ子どもの教育 変わるきっかけ p 147～149

共通するのは「自己への気づき」と「自己評価の向上

やる気のない非行少年たちが劇的に変わった瞬間 代わってみる

人に教えたい 人から頼りにされたい 人から認められたい このことを知る

子どもへの社会面、学習面、身体面の三支援

学習の土台にある認知機能を「ターゲットにせよ」コグトレ p 161～164

感情のペットボトル コグトレ棒

脳機能と犯罪の関係

性犯罪者を治すための認知機能トレーニング 被虐待の児童の治療にも

犯罪者を納税者に